

令和 7年度
 社会福祉法人大五京
 メリーポピンズこども園
 自己評価結果公表シート

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

「職員が連携して園全体の保育環境及び、保育力の向上に努める」

- * ワンフロアを活かした異年齢保育により、子どもの主体性や協調性を育む機会を多く作る。
- * ベテラン職員の保育を見て学ぶことで、自分の視野を広げ、保育力アップに努める。(向学心・探求心・人間性向上)
- * 保護者対応時に園での様子をよく判り安心していただけるよう、一段丁寧な関わり方を意識する。(コドモン連絡、電話対応を含む)
- * 園内環境を整備し、常時、綺麗で安全な状態を保つ。(5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰)

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)	取り組み状況
① 園の特徴であるワンフロアでの保育の良さを意識して保育の幅を広げ、子どもの成長につなげていく。	・クラスを越えて一緒に遊んだり、散歩に出かけるなどして、子どもたちが、同じ空間で交流して過ごす。
② ベテラン保育士の指導方法を他の職員もしっかり学び、身につけていく。	・サポート職員にクラスの手伝いに入ってもらい、ベテラン職員の指導法を学ぶ機会を多く作る。
③ 保育室、調理室など、常時きれいで安全な状態で使えるようにする。	・5S活動を意識して取り入れる。(整理・整頓・清掃・清潔・躰)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児保育は夕方の時間に乳児、幼児に分かれて縦割り保育の仕組みを作り、進めてきた。幼児クラスは、8月より本格始動し、子ども達が自主的に自己表現出来る場として、うまく活用でき、子ども達の成長の場となった。乳児クラスは担任と離れられないおさまもいて、幼児クラスほど活発な動きに繋がらなかったが、子どもにとって優意義な時間になるように、話し合って遊びの工夫ができた事は評価できる。保護者様からの大変満足度も76.4%となり、目標としていた65%はクリアした。 ・ベテラン保育士の指導は見て学ぶことを意識し、自分の保育に取り入れて実践する事でどの職員も保育力が向上した。 ・5S活動は、毎月、個々がチェックして振り返り、次に生かす事が定着してきた。また、床のリフォームが完了し、きれいになったことで、保育室等の環境を整える事にも職員の目が向くようになった。
--

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題	具体的な取り組み方法
① クラス内や部署内での情報共有が十分でない場合があり、職員間での認識の違いが生じることがある。	毎日の業務内容の打ち合わせを密に行い、業務を行う子どもの様子や保育の情報を共有する。
② 園内研修が体系化されておらず、職員間で方針や園の保育方針の保育観、保育の理解度にばらつきがある。職員への指導方法を統一していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・部署ごとの課題をあげて、年間研修計画を立てて、進める。 ・職員の指導方法をマニュアル化する。
③ 園の方針や保育内容が保護者や地域の方に十分に伝わっていない場合があり、保育の取り組みが見えにくい。	テロップや配信動画等も活用して保育内容を分かりやすく発信する。また、保育参観や行事、地域交流活動を通して園の保育への理解を深めてもらう。

6. 学校関係者の評価

令和7年度社会福祉法人大五京 学校評価

令和七年度一年を通して、各施設が異年齢での保育・教育に積極的に取り組むことで、年齢ごとの保育・教育では獲得できない領域でのお子様の成長をうながすことができたとの客観的成果報告が多くあった。これら賞賛すべき成果は法人本体と各施設、何より職員一人ひとりが同じ教育保育目標を深く理解して、共感し合ったことにより成し得ることができたものであると考える。

そのため、現場レベルではコミュニケーションが質量ともに高まり、それがベテラン職員と若手職員、法人本部と各施設など垂直的、水平的に垣根を越えて展開されることになったことは、必然性を伴った良い方向での副次的効果であったと言える。

更には、法人が内設する臨床スキル研究所の公認心理師・臨床心理士との連携により、エビデンスに基づいた個別のお子様、集団としての複数のお子様に適応した現場において実現可能な発達支援や心理支援が有機的に行われていたことは、この間の研究投資に対する成果の一つであったと評価できる。

理事会・評議会としては、全国的な人手不足、物価高、少子化といった複合的問題に対して耐えうる収益状況の強化を各施設、職員の方々と協力し合いながら構築していきたいと考えている。

令和8年3月18日 理事会・評議会